

新聞を使った授業11

2月18日(火)に第2回学校保健・食育委員会があり、生徒の保健・食育委員会の代表2名が、委員会の活動報告を行いました。

生徒たちが取り組んだのは、給食の献立作りで、1年生が主食の「さつまいもご飯」、2年生が汁物「ぬっぺ汁」、3年生が主菜の「豚肉の生姜焼き」と副菜の「小松菜のサラダ」の2品を考えた様子を動画を交えて紹介しました。

献立を考える際の参考にしたのは、新聞

に掲載されてる料理やレシピの紹介コーナーだそうです。生徒たちは、「栄養のバランスを考えるのが大変だった。普段から考えている栄養教諭の先生や母親はすごいと思った」と感想を述べていました。



生徒
考えた
献立が

気になる記事コーナー25

読売新聞 2月18日(火)

今回の気になる記事は、読者の投稿コーナーです。読売新聞には投書コーナーがあり、その中に「U-25」という若者の声を集めたコーナーがあります。

1つ目は、身だしなみなんてどうでもいいと考えていた中学生(13歳)の塾でのエピソードです。彼は、塾の先生に「中学は大変そう。つらそうなのが服に表れている」と言われ、日々の生活が「服装を整えることすらできないほど必死だった」ことに気づかされ、以後、服装を整えるようになったそうです。同じことでも「なんて」と考えるか、「すら」と考えるかで、大きく違ってきます。皆さんも、注意されてしぶしぶ行動するのではなく、そんなことすらできていない自分に気づいて自分から行動するようにしましょう。

2つ目も中学生(14歳)の投稿。彼女は、読者に日常会話が単調になっていませんかと問題を投げかけています。「美しい」とことを表現するにも「やばい」「超キレイ」などの言葉は使わずに、「優美(ゆうび)」「きらびやか」「麗(うるわ)しい」などを使うと印象が違ってきます。彼女は、メールなどのやり取りの増える時代だからこと多彩な日本語の表現を知るべきだと主張しています。まさに、大和撫子ですね。

身だしなみ注意 心に余裕

中学生 小島 柊 13
(東京都多摩市)

僕は以前、全く身だしなみを整えていませんでした。「他人からどう見られるかはどうでも

いい」と考えていたので、注意されたら直すくらいでした。

でもお世話になった塾の先生から「中学は大変そう。つらそうなのが服に表れているよ」

と言われ、「服装を整えることすらできないほど必死だった」ことに気づかされたのです。

その後、身だしなみを整えています。他人からよく見てもらうためではなく、身だしなみに気をつける余裕がある生徒だと思わせるためです。

多彩な日本語学ぼう

中学生 高木 綾乃 14
(埼玉県熊谷市)

「やばい」「超キレイ」などの言葉ばかりを使い、日常会話

が単調になっていませんか。私はもっと会話を豊かで彩りあるものにするため、たくさんの表現を知るべきだと思います。

日本語は、たくさんの言い方があると思うのです。「美しい」なら「優美」「きらびやか」「麗

しい」などもあって、印象は違います。知るのは大変だけど、調べるとすてきな表現、初めて知る表現と出会えます。メールなどでやりとりが増えている今だからこそ、たくさんの表現を知るべきだと思うのです。